

スイカ

使用産地：千葉県、山形県、長野県など

使用目的：

スイカは着果以降より養分吸収が大きく増加する特徴があります。着果から果実肥大最盛期に備えて十分な根群をつくり、生育後期まで樹勢を維持することが良質のスイカを収穫することにつながります。排水性の良い作土を深層部まで作ることため、根域を広げるために有機物とコフナを合わせて深耕し土作りを行います。

その他、スイカ栽培ではつる割病、ホモプシス根腐病などの土壤病害対策に収穫後の残根処理やハウス栽培での太陽熱土壤消毒（コフナ・ソーラー法）などでコフナを使用します。

基本的な使用方法

《本圃での使用の場合》

収穫後

散布時期：収穫終了後堆肥施用時もしくは緑肥作物のすき込み時

使用数量：コフナ1号もしくはコフナMPSS 7～15袋／10a。

使用方法：堆肥施用時もしくは緑肥作物のすき込み時に全層施肥。

効 果：前作の残根、未熟有機物の分解および腐植化。

定期的に行うことで微生物が繁殖し、深くやわらかい土になっていきます。

そ の 他：収穫後は土壤水分・地温がある内に出来るだけ早くコフナを投入して下さい。

米ぬかと併用すると微生物の繁殖により効果的です。

可能であれば30cm以上の深耕を行なって下さい。

初期の活着促進のために

散布時期：定植10～14日以上前

使用数量：コフナ1号もしくはコフナMPMPSS 7～10袋／10a

使用方法：元肥と同時に施用。土壤混和。

効 果：① 毛細根の発達 ② 根圏静菌作用の向上

注 意 点：未完熟の堆肥と同時に施用しないで下さい。

👉育苗場面でも使用されています。



千葉県

千葉県富里市のスイカ栽培暦

作型	2月		3月		4月		5月		6月		7月		8月	
路地トンネル	×	×	コフナ	●	●	●	●			収穫	×	×	コフナ	
促成ハウス	●	●						収穫		ソーラー法				

● 定植 収穫 コフナ・ソーラー法 × 薬剤消毒

1. 露地トンネル栽培

施用時期：① 定植前（土壌消毒後） ② 収穫終了後（土壌消毒後）

使用量：コフナMPSS 10～15袋／10a

目的：① 定植前の土壌微生物の多様化・活性化による発根促進
および根圏の静菌作用向上

② 収穫収量後、前作残根および有機物の分解・腐植化

③ 土壌病害発生圃場での土壌消毒後、無菌状態からの微生物相改善

2. 促成ハウス栽培

施用時期：収穫終了後（6月）より1ヶ月程度、太陽熱土壌消毒（還元消毒）に併用

使用量：コフナMPSS 10～15袋／10a

目的：コフナ併用による太陽熱土壌消毒（還元消毒）の効果安定

① 太陽熱に加え微生物による発酵熱での地温向上

② 還元条件下での嫌気性菌に産生される有機酸による病原菌抑制

③ 微生物の多様化による微生物層の改善

④ 前作残根および有機物の分解・腐植化



コフナ・ソーラー法処理のイメージ



山形県

山形県大石田町のスイカ栽培暦

作型	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
露地		収穫			コフナ	秋マルチ	

定植は4月中下旬

1. 露地栽培

施用時期：秋マルチ前の元肥時

除草実施後、元肥・堆肥とともにコフナ投入

使用量：コフナMPSS 5袋～／10a

使用目的：①連作で硬くなった圃場を微生物で耕すため

②病害虫予防

使用結果：作物が強くなっているため、病害虫の発生が少ない。



長野県

長野県松本市

1. 育苗培土（培養土）の強化

施用時期：培養土が配布され次第

使用量：各種培養土700Lに対してフランスコフナ1.5kg

使用目的：①健苗育成

②病害虫予防

2. 緑肥の早期分解

同地域では収穫終了後、地上部残渣を持ち出して、

残根分解の目的とともに緑肥を播種して、ロータリー耕を行います。

年内中に緑肥をすき込むため、地温の低い時期での分解促進にコフナが期待されています。

※緑肥は病害虫に有効なエンバクやカラシナが取り入れられているようです。

スイカ栽培に適した土壌

- スイカの根は生育初期には主に横方向に伸長するが、その後は土中深く伸びるので、乾燥には強いが、多湿には弱い傾向にある。
- 排水の良い壤土が栽培に適する。
- 根域が十分に広がっていないと収穫期に草勢が衰え、糖度が十分に蓄積しないうちに肉質が低下。

<鳥取農試調査>

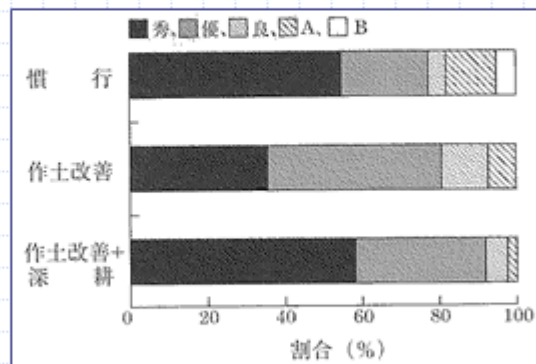
作柄良好圃場

- ①硬盤の出現位置が深い
- ②下層土の土壌硬度が低く、保水性・透水性が良い。

19

土壌管理がスイカ品質に与える影響

<鳥取農試>土壌改良後2作目の結果



※作土改善は堆肥と熔リン施用

※深耕は40cm

20